

## 発掘調査の概要

### 藤原京左京三条三坊の調査(飛鳥藤原第204-6次)

都城発掘調査部(飛鳥・藤原地区)では、個人住宅の建設にともなって、藤原京左京三条三坊東南坪、西南坪の発掘調査を実施しました。これまでの周辺での調査成果から、調査地では東三坊坊間路の両側溝や弥生時代の遺構の検出が想定されました。調査区は、東西14.5m、南北3mで設定しました。調査期間は10月7日から10月26日までです。

調査の結果、藤原宮期の遺物廃棄層、東三坊坊間路の両側溝、古墳時代前期の柱穴、弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての沼状遺構、弥生時代後期の素掘りの井戸を確認しました。

藤原宮期の遺物廃棄層は炭と大量の土器を含み、これらは東三坊坊間路西側溝の埋没最終段階に捨てられたものです。土器は藤原宮期の須恵器と土師器で、完形に近いものもあります。このことから近辺に宮期の遺構が広がっている可能性があります。

東三坊坊間路の東側溝の幅は約1.0m、深さ約30cmです。一方の西側溝の幅は1.5～2.0m、深さ約30cmです。東三坊坊間路の路面幅は5.5～6.0mと考えられます。また、本調査区内では、約150m南方の第63-7次調査のように条坊側溝を埋めたのちの、坪をまたいだ土地利用は確認できませんでした。

調査地周辺は藤原宮に近接する一等地で、大規模宅地も想定できますが、調査例は多くありません。今後も調査を積み重ねて、周辺の実態解明を進めていきます。(都城発掘調査部 片山 健太郎)



調査区全景(東から)